

東京都立矢口特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 宮嶋祐紀子先生をお迎えして、「特別支援教育を考える～子どもが安心して就学を迎えられるために～」をテーマに御講義、御指導をいただきました。

特別支援教育コーディネーターの役割—校内の特別支援教育の推進役として位置づけられた教員

- ・校内外の教育的支援の充実—教育相談の窓口 ・高校につなぐ—進路先への窓口
- ・地域；福祉；医療との連携 ※普通の教員で、どこの学校にもいることを知っておいてほしい。

【ワーク】園で気になるA児の特に気になっていることを各自が書き、隣の先生と意見交換する。

1 そのお子さんを見ましよう⇒ 障害特性の知識は必要だが、手だては個に応じたもの（環境や成育歴に要因があるのか、障がいの特性なのか、発達の時期に現れる行動なのか。）

- 2 育ちを知る⇒ 就学までの育ち、就学相談のながれ、学びの場を知る。
- ・就学相談は人数が増えていて相談時期が早くなっている。
 - ・保護者に聞かれた時、相談の流れを話してあげると、よく知っている先生からの話なので保護者は心強い。



<特別支援学校と特別支援学級> ～どちらも個に応じた学習指導

<特別支援学級> ・**集団での動き** 学習 ・設置校の授業時間と同様の授業時間設定
・定員—1クラス8人（複式編成；学年が違う子で1クラス作ってもよい）

<特別支援学校> ・より**個に配慮した指導**

・身辺自立のための指導（日常生活の指導に15分とってある～着替え、排泄、給食前後、帰りの前等）を組み込んだ時間割 ・スクールバスの利用が可（大半） ・1クラス6人（単式編成）

*入ってくる子のバラつきがあるので、パーテーションやカーテンで仕切ることもある

・**重度重複学級**は1クラス3人 —より重い、健康上のこと等

※**副籍交流**— 矢口特別支援学校には、学校のある地域外からも来ている。離れた学校に通うことで、地域とのやり取りが希薄になってしまうのではと懸念があるが、地域の学校にある副次的な籍を利用して交流を行う仕組み。⇒ 副籍交流を利用した交流活動～地域のつながりを大事にする。

<特別支援教育の目標> =一人ひとりの教育的ニーズを踏まえて、その子にとっての「自立」と「社会参加」を目指す教育。学ぶって楽しいなど、どの子にも感じられること。

※人から支援を受けて自立することも自立。支援を受けて自立していくことも十分自立ということ。

☆特別支援教育は、保護者も支援する対象

☆安心できる学校生活へ 一緒に伴走しながら

- ①傾聴：じっくり聞く態度
- ②受容：肯定的に認める態度
- ③共感：ともに感じる態度

自己解決能力の発揮につながり目標に向かって進む力が生まれる

- ・共有する（一緒に行ってみようか、先生に話してみようか等）
- ・子どもも保護者も安心して通える環境 ・子どもが、できた喜びがもてるような生活

親子で自信がついていく！

<就学支援シート> 保護者と一緒に作る**ポジティブな支援のバトン**

- ・出来ないことを伝えるものではなく、こうやったらうまくいったことを伝えるもの。学校では「個別の教育支援計画」に活用する。園にいるA児は「こういうところがありますけれど、こんなふうにすると安心できます」と伝えると安心感をもって小学校に受け入れてもらえる。
 - ・このようにA児が安心する姿を積み重ねてもらいたい。 ・大田区の巡回相談や様々な相談を利用する。
- ◎宮嶋先生に連絡して来てもらうことも可能とのお話をいただく。

【講師からのメッセージ】

☆誰かを支援するときは、自分も助けを求めながら行う。

☆支援は、「やってもらうこと」ではなく、お互いの協力で作るもの。一人で頑張らない支援を。今日講師を引き受けた理由は、矢口特別支援学校に「知り合いができた」と思ってほしいからです。

参加者の感想から

- ・就学相談のながれや特別支援学校(学級)の特色等知ることができ保護者と話をする上で、とても役立つと思う。保護者支援では、一人一人と向き合い不安に思っている事をもっと聞いていこうと思った。
- ・「個(子ども)を見る」ということは、特別な支援に限らず、保育の中で大切にしていきたいと感じた。
- ・要支援児や気になる子どもには、子ども自身が分かり易い援助が必要だと改めて感じた。
- ・気になる行動や性格等を障がい名で決めつけるのではなく「まずはその子を見る」、「何で〇〇してしまうのだろう」ではなく、「何に困っているのだろう」という見方に変えてみようと思った。
- ・個々の育ちの大切さ、一人ひとりの背景を把握、保護者支援の在り方など、園で共有し、小規模園だから関係ないというのではなく、3歳で送り出す際にしっかりと橋渡しができるようにしたいと思った。
- ・先生のお話で勇気づけられ自分の保育を振り返り反省し、保護者の伴走者でありたいと思った。
- ・「安心」できる環境を作り、周りに頼ってより良い支援者になっていきたい。